

令和6年度 南アルプス市立櫛形北小学校 学校関係者評価書

令和7年1月31日（金）
学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

日時 令和7年1月17日（金）

会場 櫛形北小学校図書室

評価者 学校関係者評価委員

【学校評議員】 長澤 光（元中学校校長） 野田佳代子（主任児童委員）
横小路 豊（元小学校校長）

【各地区長】 保坂 立之（曲輪田区長） 米山 孝（上宮地区長）
相原 繁博（桃園区長）

【PTA】 加藤 壽也（PTA副会長） 名取 唯衣（PTA子育て代表）
保坂 奈々（PTA子育て代表）

【学校】 志村 泉（校長） 佐野 良彦（教頭）

内容 1 学校側からの提案

- ① 学校評価の方法について
- ② 児童アンケートの内容と結果について
- ③ 教職員自己評価の内容と結果について
- ④ 保護者アンケートの内容と結果について

2 協議

- ① 学校評価への全体評価、項目ごとの評価・達成状況について
- ② 学校教育全般について

《学校関係者評価書》

1 全体的な評価について

教職員の自己評価や児童・保護者へのアンケートの結果を見ると、ほとんどの項目で肯定的な評価が90%を超えており、学校における日々の熱心な教育活動の成果が表れている。また、この結果から櫛形北小学校の教育活動は、概ね適正に行われ、児童や保護者からも肯定的に受け入れられていると考えられる。しかしながら、否定的評価率がやや高い内容の項目も存在しているので、それらを改善できるように原因を分析して次年度の指導につなげる必要がある。

また、保護者アンケートの回答率が78%にとどまっており、アンケートに未回答の保護者の意見が気になる場所である。学校改善のための重要な取り組みであることを繰り返し伝えるなどして、回答率が向上するように取り組まなければならない。

2 評価委員会の中で委員の皆様から出されたおもな意見

○ 児童アンケートについて

【学校生活】に関わって

- ・ 全般的に児童が頑張っている様子がわかる。ということは、先生方の指導も家庭での生活も、ともに充実しているということである。
- ・ 学校が楽しいと感じることは、学校生活の原動力になる。それぞれの児童が自分なりの楽しさを見つけているのではないか。

【確かな学力】に関わって

- ・ 自分の考えを伝えるのは難しいことだが、伝えられる児童がこれだけいるのは素晴らしい。
- ・ 「授業が分かる」と回答している児童が90%を超えている。分かると思って授業を受けているということであり、クラスの雰囲気もよいのではないか。

- ・ 小中一貫教育の一環で「あやめっ子タイム (Simple プログラム)」に取り組んでおり、楽しみながら人間関係をつくる活動が学校生活にとどまらずクラスの雰囲気づくりにおいて成果を上げている。

【豊かな心】に関わって

- ・ 靴そろえは意義のある実践で、自分の子どもにもさせていた。小笠原流礼法の授業や小中一貫教育の取り組みとして継続し、さらに充実させていきたい。
- ・ 子どもにとっては嫌なことかもしれないが、家庭の中においても、自分の役割をもたせた方が将来の役に立つのではないか。
- ・ 学校の周りで児童があいさつなど声をかけてくれる。保護者としても、学校でつながりを大事にしてくれていることが伝わってくる。これからも、あいさつは大人からしていくべきである。

【健やかな体】に関わって

- ・ 「早寝・早起き・朝ご飯」については家庭環境に左右されるところが大きい。特に、朝ご飯を食べないと回答した児童の理由や原因が調べられるとよいのではないか。

【その他】に関わって

- ・ スマートフォン等は、もはやなくてはならないものになっており、SNS等における情報モラルの徹底は避けて通れないことである。

○ 職員による学校評価について

【学校経営・学校運営への参画】に関わって

- ・ C評価のある項目については、評価者の判断基準によることもあり、理由を明確にする必要はあるが、昨年度までに見えなかった課題に気づいて取り組んでいる結果でもある。

【学習指導】に関わって

- ・ 教師によって伝え方や指導方法は異なるが、結果を見ると、目指す先は同じであり、その結果が子どもたちの評価につながっている。

【生徒指導・生活指導】に関わって

- ・ さまざまな特性をもつ児童がおり、それぞれの対応があると思うが、外部の知識も総動員して日々の教育活動を進めてほしい。

【保護者・地域との連携】に関わって

- ・ 情報発信は非常に重要であり、保護者からの信頼度も変わっていくと思う。その点で、以前と比べて情報がリアルタイムに発信されているので、自己評価結果を見てもこのことが大事されていることが分かり、保護者から見てもありがたい。

【小中一貫教育】に関わって

- ・ 「学び合い」の項目で肯定的な評価が100%になったことは、小中一貫教育の成果である。さらに伸びるよう取り組みを継続してほしい。

【働き方改革】に関わって

- ・ 教職員みんなで教育活動を進めていこうという意識があり、退校時間も早くなっている。
- ・ 若い教職員が不安にならないような環境をつくる必要がある。
- ・ 若い教職員も、ICT活用の分野などで新たな提案をする雰囲気もあり、働き方改革のために力を発揮しており、職場が活性化している。

○ 保護者による学校評価について

【学校が楽しいか】に関わって

- ・ 児童アンケートと同様に、保護者の肯定的な評価が多い。何をすることも「学校が楽しい」が基本にある。

【子ども理解 (学習・友達)】に関わって

- ・ 質問として難しいと感じる部分がある。例えば、「お子さんには仲の良い友だちがいますか」などのように答えやすい質問にしてもよいのではないか。
- ・ 保護者としては、子どもと認識のずれがあるような気がする部分もあるため、子どもの世界については答えづらいところがある。そういったことが児童アンケートの結果とのずれにつながっているのではないか。

【家庭・地域との連携】に関わって

- ・ 「D」と回答した人数が多い。具体的に、どういう声、どういう施設・設備に対して「D」という評価をしているのか、内容をはっきりとさせるためにも、記述してもらうことを考えてはどうか。

【生活習慣】に関わって

- ・ ここでも児童アンケートの結果との違いがあるのは、例えば、朝ご飯を食べていない家庭の保護者がアンケートを出していないということもあるのではないか。
- ・ あいさつに対する意識が高いことはよいと思う。

【情報発信】に関わって

- ・ 情報発信については、概ねうまくいっている。
- ・ 学校側からの細やかな配慮に感謝している保護者が大多数である。

【情報端末の所持と使用】(項目⑫⑬)に関わって

- ・ 児童は40%持っていると答えているが、保護者は27%と答えている。これも、生活習慣のところと同じ理由だと考えられる。
- ・ 情報端末の使い方や情報モラルについては今後も指導を継続する必要がある。

○ その他、アンケート全般について

- ・ 保護者が、子どもの前で学校や先生のことを悪く言わないほうがよい。
- ・ PTAの会議の連絡をメールでもらえないだろうか。メールや紙媒体のそれぞれのよさ、リマインドの必要性などを含めて検討していきたい。
- ・ 質問項目を見直して、学校が改善につなげられる質問にしたほうがよい。